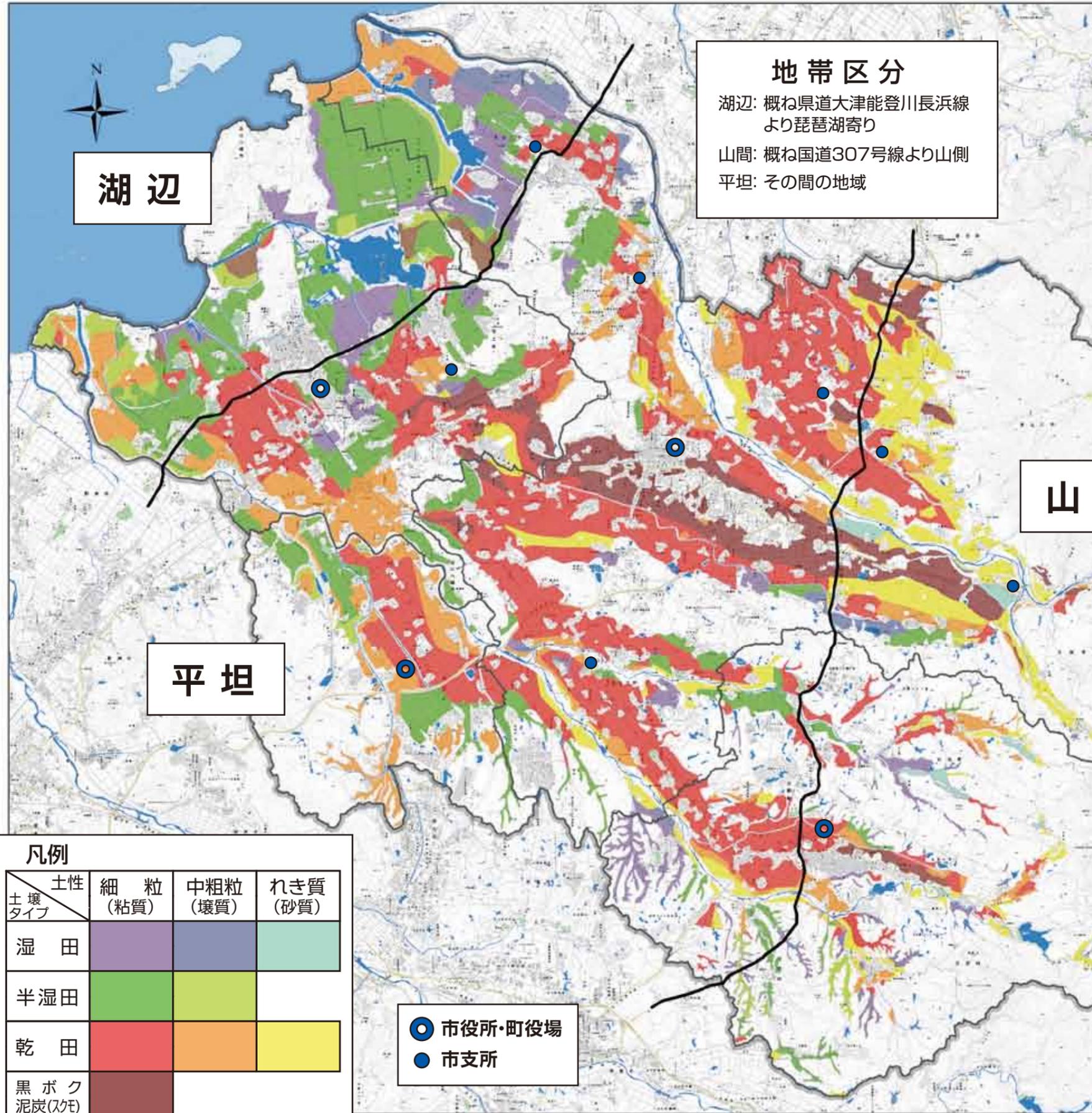


東近江地域の土壌マップ



湖 辺

山 間

平 坦

地帯区分
 湖辺: 概ね県道大津能登川長浜線より琵琶湖寄り
 山間: 概ね国道307号線より山側
 平坦: その間の地域

凡例

土性 土 壤 タイプ	細 粒 (粘質)	中粗粒 (壤質)	れき質 (砂質)
湿 田			
半湿田			
乾 田			
黒ボク 泥炭(スクモ)			

● 市役所・町役場
 ● 市支所

土壌地帯別の水稻施肥量(速効性肥料の体系)

(単位: チッソ成分量 kg/10a)

品 種	地帯区分	土性	基肥	追肥	穂肥① 出穂前18日	穂肥② 出穂前11日	合計量
コシヒカリ	湖 辺	細 粒	1~2	1	2	1~2	5~7
		中粗粒	2	2		2	8
		泥 炭			2~3	1~2	8~9
秋の詩	平 坦	細 粒 中粗粒 黒ボク れき質	2~3	2	3~2	2	8~10

品 種	地帯区分	土性	基肥	追肥	穂肥 出穂前25日	合計量
キヌヒカリ	湖 辺	細 粒	3~4	2	3	8~9
		中粗粒				
		泥 炭				
日本晴	平 坦	細 粒 中粗粒 黒ボク れき質	3	3	4	10
	山 間					

※施肥田植機の場合は追肥量を基肥量に加え、その合計した量の2~3割を減じる。
 ※環境こだわり栽培は、化成肥料の上限量を超えないように注意する。
 ※秋の詩の穂肥は倒伏防止と後半の栄養維持のため分施とし、1回目を出穂前18日に施用する。

土壌の特性

細粒・湖辺(大中等)

湿田(全層もしくは作土直下より青灰色の還元層(グライ層)が出現)や半湿田(深さ30~80cm以内に還元層が出現)が多く分布する。土壌は肥沃で、肥持ちも良い。土壌の還元性が強く、初期生育が抑制されやすいが、生育中後期の窒素発現量が多く、窒素過剰となりやすい。倒れやすい品種は作りにくい。

中粗粒・湖辺

細粒・湖辺よりも排水性がよく、水稻の生育は安定している。土壌有機物の分解や養分の溶脱が進むので、その補給が必要である。

細粒・平坦

地力窒素の発現は、湖辺土壌よりは少ないが、肥持ちは良い。初期生育は比較的良いが、生育後半に地力の発現が減退し、栄養凋落を起こしやすい。

細粒・山間

有機物含量が少なく、一部(甲賀市隣接)を除き、地力が低い。肥持ちは比較的良いが、窒素発現量が少なく、多肥向きの品種は収量が上がらない。

中粗粒~れき質(平坦、山間)

有機物含量が少なく、窒素発現量も少なく、肥持ちは悪い。特にれき質(礫層、砂礫層が出現)土壌では、有効土層が浅く、窒素発現が生育前半に偏り、秋落ちしやすいので生育後期の栄養維持が重要である。水持ちも悪く、土壌養分の溶脱が進んでおり、こまめな水管理と積極的な有機物・塩基の補給が必要である。

黒ボク・泥炭土(スクモ)

有機物含量は多いが、窒素発現量は少ない。肥持ちは良い。黒ボク土では、リン酸の固定力が強く、リン酸欠乏になりやすい。湖辺にみられる泥炭土(ヨシ等の分解が不完全な泥炭層が出現。スクモともいう)では過湿なほ場が多い。